

委員会報告

桜川市議会議員は、全議員がいずれかの常任委員会に所属し、それぞれ掲げたテーマについて審査しています。このページでは、その審査内容や各委員会の活動状況を報告します。

文

教厚生 常任委員会

今号は文教厚生 常任委員会に注目



飯島重男 委員長 萩原剛志 副委員長 高田重雄 委員 潮田新正 委員 小高友徳 委員 風野和視 委員 菊池伸浩 委員

認定こども園「安平町立はやきた子ども園」 の開園について

視察日：平成26年5月21日（水）～23日（金）
出席委員5名 欠席委員2名
視察先：北海道安平町・滝川市・深川市

安平町において、認定こども園「安平町立はやきた子ども園」の開園について視察研修を行いました。「安平町立はやきた子ども園」は、早来・安平両保育園施設の老朽化と、遠浅保育園を加えた3園の耐震化未整備・児童館の未整備・放課後児童クラブ施設の老朽化・子育て支援センターの収容不足等、多くの課題を抱えている状況がありました。

幼保連携型認定こども園は、課題解消と経営経費削減を図る目的で、保育園3園を統合し幼稚園教育を導入しました。施設の統廃合の地域説明会を9回、保護者説明会を12回実施し、それぞれの同意を得て平成22年4月に開設されました。定員は120人で、保育所機能として85人、幼稚園機能として35人で、一時預かり保育や休日保育も実施しており、休園は年末年始のみとのことでした。

また、児童複合施設として、子育て支援セン

ター・児童センター・放課後児童クラブも併設され、たくさんの方が利用しています。桜川市においても、子ども子育て新制度に向けて業務を進めておりますが、市の状況を把握するとともに、今後の方向性については、子育て支援の主役は子育て中の家族であることから、子育て家族のニーズを的確に把握し、認定こども園等の整備や子育て支援事業を推進するよう要望しました。

また、滝川市では「小・中学校適正配置計画」、深川市では「深川市立病院の経営」の視察研修を行いました。



安平町立はやきた子ども園

「新中核病院と 県西総合病院」 について



萩原剛志 議員

問 議会としても、県西総合病院の存続を前提に新中核病院の協議を行ってきたが、新中核病院を筑西市が整備し、県西総合病院を桜川市が整備・運営するという結果について、市長はどのように考えているのか。

答 市長 今、桜川市が、県西総合病院に対して、多額の負担を新県西総合病院建設に關して、現在の試算では年間負担額が今より安く済む可能性があり、そのうなれば得をしたのではないかと。県西総合病院が今後どのようなことになるか、まだはつきりと言えない状況ではありますが、今のところ議会の皆さんの決意があつて、よい方向に向いているのではないかと。思っています。

クラウドファンディングによる資金調達

問 「クラウドファンディング」とは、賛同するアイデアやプロジェクトに対して誰でも簡単に寄附や少額のお金を支払うことが出来るネット上の仕組みのこと。桜川市も新たな手法として、市や民間などの事業に活用してはどうか。

答 市長 公室長 今回ご紹介いただいた事例を参考に、自治体としてどのように活用できるか、ほかの事例なども調査していきたいと考えています。

その他の質問

・ヘルパーの普及促進について



県西総合病院

県西総合病院の建屋（物）について



川那子秀雄 議員

問 県西総合病院の建屋（物）について伺う。

答 市長 新病院については、現在の場所か、新たな場所での建てかえなのか選択肢がありすが、今の敷地が手狭なため、基本的には新たな場所に建てかえになるだろうというふうな考えています。

問 建てかえという市議会、他の有識者から交えて、建設委員会を立ち上げなければなら

ない。医療環境を考えると地域の力であり、県西総合病院は維持・継続させていかねばならない。中原院長を応援していくためには、

答 市長 建設委員会の設置ですが、基本的には民間的手法を取り入れた運営、自主・自立の経営を前提に考えており、

どういった経営・診療をしていくのか者詰めています。決まり次第建設委員会を立ち上げ、しっかりと話し合いをもんでいただきたいと思います。また決定ではありません。

今後の施政方針について

問 今後の施政方針について伺いた

答 市長 公約の企業誘致ですが、

へのPRを推進。誘致に向けた環境整備については、インターチェンジ周辺を重点地区として一体的な開発を進めていく予定です。教育の充実については、少子化に対応できる小中学校の適正規模・適正配置の整備において、よりよい教育環境となる学校の統合を推進していきます。小中一貫教育にも取り組んでいきます。